

健康テラス

がんばれ! にっぽん! コロナに負けるな!!

痔について

いきなり「おしり」の話で申し訳ありません。皆さんは「おしり」に関しては恥ずかしくてなかなか言いにくい、人に相談もしにくい等々で悩んでおられないでしょうか。しかも痔の症状はつらく、またガンだったということもあるので、放っておかず、肛門科のあるところに受診することを勧めます。

診察では変な体位をとることはなく、左横向きにベッドに寝て「おしり」だけを出して診察します。その前に問診をしますが、痔は問診だけでほぼ8割は診断できます。あとはその重症度と治療方法を検討するために診察します。

次に簡単に痔のタイプと症状について説明します。痔は大きく分けて3つに分けられます。

1.痔核

いわゆるイボ痔です。外痔核と内痔核があり、外痔核は肛門の外が膨れて痛くなってきます。

内痔核は肛門の中にできて、出血したり、飛び出してきたりします。

2.裂肛

切れ痔とも言われます。硬い便などをしたときに肛門上皮が裂けて痛みや出血を起こします。

3.痔瘻

あな痔とも言われ、肛門の中の洞穴のような部分に細菌が入り込み、化膿して肛門の周囲に膿が出てきます。

治療方法は各々異なり、状態に応じて薬で様子を見たり、手術をすることもあります。手術も痛くない手術からやっかいな手術までいろいろですが、悩まずに肛門科にご相談下さい。



小川クリニック
小川 吾一 先生

大腸憩室とは

「大腸憩室」とは、大腸壁の一部が囊状に突出したもので、そのほとんどは腸管内圧の上昇により発生した筋層を欠く仮性憩室です。頻度は加齢とともに増加し、発生部位によりS状結腸を中心とした左側型、上行結腸を中心とした右側型、および両側型に分けられます。通常は無症状で経過し、健診などで偶然発見されることが多いのですが、まれに憩室からの出血や憩室とその周囲に炎症をおこすことがあります。憩室出血のほとんどは、腹部症状を伴わない暗赤色ないし鮮紅色の下血です。CTや大腸内視鏡で診断され、多くは絶食、輸液などの保存的治療で自然に止血します。出血が持続する場合は内視鏡的止血術が選択されますが、それが困難な場合には手術を要することもあります。憩室炎は腹痛が主症状となり、その診断にはCTが有用です。腸管安静、抗生物質投与などが治療の原則ですが、穿孔性腹膜炎、膿瘍形成、高度狭窄など保存的治療が無効の場合は手術が

必要となります。普段から暴飲暴食やストレスを避け、便通を良好に保つことが大切です。下血や腹痛がある場合は、大腸憩室が原因の場合もありますので、すみやかに医療機関を受診しましょう。



女の都病院
内科 水田 陽平 先生